

【対象者】

文系クラスのレギュラー受講者の中で、早慶以上のレベルの大学を志望し、授業テキストの既習内容が習得できている人

- ※ 授業テキストの内容を前提とした講座で、難易度の高い問題を扱うので、早慶以上のレベルの大学を志望する人でも、復習試験の点数が120点未満の人や11月生で小テストの平均点が23点未満の人は受講しない方がよいです。
- ※ レギュラー授業の内容を前提とした講座なので、レギュラー授業を受講していない人は基本的には受講しない方がよいです。それでも受講を希望する場合は、数学科の講師に相談してください。

【本講座の内容】

「典型問題は解けるけど、複雑な見た目の問題や初めて見る設定の問題になると手が動かなくなる」という受験生は多いと思います。複雑な見た目の問題でも、基本問題の融合に過ぎず、1つずつ基本的な処理を行うだけで解けることも多いです。また、初めて見る設定の問題でも、実験することで問題の急所が見えることも多いです。

早慶以上のレベルの入試では、いくつかの基本事項の融合問題で基礎を応用する力を要するものや、初見の設定の問題でその場で考える力が問われるものが出題されます。本講座では「レギュラー授業で習った知識をどう応用するのか」「初めて見る設定の問題をどう解いていくのか」といった難関大で求められる内容を解説します。また、難関大の入試の多くは記述式です。正しい答えを出すだけでなく、それを論理的に説明する力も求められるので、答案の書き方についても解説します。

6日間のうち、前半の3日間で問題の解き方や答案の書き方を解説し、後半の3日間では入試問題を通して前半で習ったことを実践してもらいます。後半の演習では答案添削も行うので、自分の答案の議論の誤りや、解答の書き方としてよくない点を学ぶこともできます。